

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	中国財務局長
【提出日】	2022年11月14日
【四半期会計期間】	第22期第2四半期（自 2022年7月1日 至 2022年9月30日）
【会社名】	株式会社フェニックスバイオ
【英訳名】	PhoenixBio Co.,Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役 島田 卓
【本店の所在の場所】	広島県東広島市鏡山三丁目4番1号
【電話番号】	(082) 431-0016 (代表)
【事務連絡者氏名】	専務取締役管理部長 田村 康弘
【最寄りの連絡場所】	広島県東広島市鏡山三丁目4番1号
【電話番号】	(082) 431-0016 (代表)
【事務連絡者氏名】	専務取締役管理部長 田村 康弘
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第21期 第2四半期連結 累計期間	第22期 第2四半期連結 累計期間	第21期
会計期間	自2021年4月1日 至2021年9月30日	自2022年4月1日 至2022年9月30日	自2021年4月1日 至2022年3月31日
売上高 (千円)	637,912	1,135,180	1,324,817
経常利益又は経常損失 () (千円)	128,788	403,389	127,965
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期(当期)純損失 () (千円)	130,533	356,929	387,970
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	103,918	389,316	361,958
純資産額 (千円)	1,082,416	1,232,670	828,151
総資産額 (千円)	2,563,367	2,676,539	2,280,467
1株当たり四半期純利益又は1株当たり四半期(当期)純損失 (円)	39.59	107.65	117.50
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	-	71.56	-
自己資本比率 (%)	42.2	45.8	36.1
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	10,706	38,681	16,398
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	5,203	2,802	6,975
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	19,064	29,081	34,658
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高 (千円)	1,299,022	1,403,704	1,325,507

回次	第21期 第2四半期連結 会計期間	第22期 第2四半期連結 会計期間
会計期間	自2021年7月1日 至2021年9月30日	自2022年7月1日 至2022年9月30日
1株当たり四半期利益又は1株当たり四半期純損失 (円)	59.08	76.27

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 第21期及び第21期第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期(当期)純損失であるため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

継続企業の前提に関する重要事象等

当社グループは、当第2四半期連結累計期間において営業利益を計上したものの、前連結会計年度までは継続して営業損失を計上しており、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が存在しております。

このような状況の解消を図るべく、当社グループでは北米を中心とした海外市場での事業拡大と生産体制の確立に努め、収益の改善に取り組んでまいります。海外売上高については、新型コロナウイルス感染症の影響による顧客の研究開発活動の停滞から一時的な落ち込みはあったものの、前連結会計年度から回復傾向にあり受注環境は堅調であります。今後さらに売上を伸ばすため、コンソーシアム活動やCROとの業務提携により新規顧客開拓やPXBマウス、PXB-cellsの用途拡大を進めてまいります。同時に従来の受託試験サービスからPXBマウス販売へのシフトを進めることで、経営資源をマウス生産に集中し、収益基盤の安定化を目指してまいります。そのための体制として、海外生産拠点であるKMT Hepatech, Inc.社において設備投資を行い、PXBマウスの供給能力を増強しております。今後は同社でのPXBマウス生産の安定化を目指すとともに、効率化によるコストの低減に取り組んでまいります。

資金面につきましては、当第2四半期連結会計期間末日において、1,403,704千円の現金及び預金を保有しており、資金繰りを考慮した結果、当面の事業資金を確保していることから当社グループの資金繰りに重要な懸念はありません。

以上のことから、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないと判断し、四半期連結財務諸表への注記は記載しておりません。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 経営成績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症による行動制限が緩和され、社会経済活動の正常化が進むものの、ウクライナ情勢の長期化や急速な円安の進行等に伴う物価上昇など、先行きは依然として不透明な状況にあります。

当社グループの顧客が属する医薬品業界では、世界人口の増加と新興国の所得水準の向上を背景として市場は成長しておりますが、特許切れによる後発薬の台頭、新薬開発の長期化等により製薬企業の収益性は厳しさを増しております。一方で、潤沢な資金を持つ大手製薬企業は、新たな収益源を求めて有望なパイプラインには積極的に投資する等、M&Aによる業界再編が進んでおります。このような状況を背景に、製薬企業では新薬開発を迅速かつ効率的に実施するために、臨床試験等の開発業務を外部のCRO（開発業務受託機関）へ委託するケースが増えております。また、新型コロナウイルス感染症の拡大によるテレワークの広がりによって、製薬企業の外部委託は一層増加しております。

このような状況のもと、当社グループでは感染予防策を講じながら営業及び生産活動を行っており、世界の大手製薬企業が研究開発拠点を置く米国を中心に、マウスの肝臓の70%以上がヒトの肝細胞に置き換えられたヒト肝細胞キメラマウス（当社製品名：PXBマウス）を用いた受託試験サービスを提供しております。

当社グループの主要顧客である製薬企業や研究機関におけるPXBマウスの需要は海外市場を中心に堅調に推移しており、薬効薬理分野、安全性等分野ともに多くの引き合いを頂いております。受注高は複数の大型案件を獲得した前年同期からは減少したものの、受注残高は引き続き高い水準で推移しております。売上高は海外市場の抗B型肝炎薬の受託試験やマウス販売が大きく伸びたため、前年同期を大幅に上回りました。費用面につきましては、売上原価は受託試験における外注費の減少や前期において海外生産施設の減損損失を計上したことによる減価償却費の減少等により前年同期を下回りました。また、販売費及び一般管理費は海外子会社で人件費が増加したことなどにより前年同期から増加しております。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は1,135,180千円（前年同期比78.0%増）、営業利益は367,206千円（前年同期は営業損失133,200千円）、経常利益は403,389千円（前年同期は経常損失128,788千円）、親会社株主に帰属する四半期純利益は356,929千円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失130,533千円）となりました。

(2) 財政状態の分析

(資産)

当第2四半期連結会計期間末における流動資産は2,242,261千円となり、前連結会計年度末に比べ388,013千円増加いたしました。これは主に売掛金及び契約資産が207,255千円、現金及び預金が78,197千円、その他が58,204千円、それぞれ増加したことによるものです。また固定資産は434,277千円となり、前連結会計年度末に比べ8,057千円増加いたしました。これは主に米国子会社において「リース(Topic842)」の適用に伴い、使用権資産が9,286千円増加したことによるものです。この結果、資産合計は2,676,539千円となり、前連結会計年度末に比べ396,071千円増加となりました。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末における流動負債は429,991千円となり、前連結会計年度末に比べ8,777千円減少いたしました。これは主に未払法人税等が45,194千円増加した一方で、前受金が59,830千円減少したことによるものです。また固定負債は1,013,877千円となり、前連結会計年度末に比べ330千円増加いたしました。この結果、負債合計は1,443,868千円となり、前連結会計年度末に比べ8,446千円減少となりました。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は1,232,670千円となり、前連結会計年度末に比べ404,518千円増加いたしました。これは主に親会社株主に帰属する四半期純利益の計上により利益剰余金が356,929千円、為替換算調整勘定が32,387千円、それぞれ増加したことによるものです。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前連結会計年度末に比べ78,197千円増加し、1,403,704千円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果、獲得した資金は38,681千円(前年同期は10,706千円の使用)となりました。これは主に売上債権及び契約資産の増加207,255千円、前受金の減少59,830千円、棚卸資産の増加41,613千円があった一方で、税金等調整前四半期純利益403,383千円があったことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果、使用した資金は2,802千円(前年同期は5,203千円)となりました。これは主に無形固定資産の取得による支出1,848千円があったことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果、使用した資金は29,081千円(前年同期は19,064千円)となりました。これはリース債務の返済による支出であります。

(4) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題について重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、96,158千円であります。

なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

3【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	10,000,000
計	10,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末現在発行数(株) (2022年9月30日)	提出日現在発行数(株) (2022年11月14日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	3,326,812	3,386,815	東京証券取引所 (グロース市場)	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であり、単元株式数は100株であります。
計	3,326,812	3,386,815	-	-

(注)「提出日現在発行数」欄には、2022年11月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は含まれておりません。

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数増減数 (株)	発行済株式総数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増減額 (千円)	資本準備金残高 (千円)
2022年7月13日 (注)1	19,700	3,326,812	5,841	2,369,797	5,841	589,707

(注)1. 特定譲渡制限付株式報酬としての新株式発行

発行価格 593円

資本組入額 296.5円

割当先 当社取締役4名

2. 2022年10月1日から2022年10月31日までの間に、転換社債型新株予約権付社債の転換、新株予約権の行使により、発行済株式数が60,003株、資本金及び資本準備金がそれぞれ16,418千円増加しております。

(5) 【大株主の状況】

2022年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式(自己株式を除く。)の 総数に対する所有 株式数の割合 (%)
三和商事株式会社	奈良県橿原市雲梯町594	808,000	24.29
森本 俊一	奈良県橿原市	506,000	15.21
THEケンコウFUTURE投資事業有限責任組合	東京都港区愛宕2丁目5番1号	184,400	5.54
株式会社特殊免疫研究所	東京都文京区後楽1丁目1-10 日本生命水道橋ビル	129,000	3.88
株式会社SBI証券	東京都港区六本木1丁目6番1号	109,104	3.28
株式会社叡拳	東京都文京区後楽1丁目1-10 日本生命水道橋ビル	88,000	2.65
積水メディカル株式会社	東京都中央区日本橋2丁目1-3	80,000	2.40
安田 信也	大阪府交野市	58,000	1.74
中外テクノス株式会社	広島市西区横川新町9番12号	57,000	1.71
三菱UFJキャピタル4号投資事業有限責任組合	東京都中央区日本橋2丁目3-4	54,500	1.64
計	-	2,074,004	62.34

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2022年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	-	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 3,325,400	33,254	-
単元未満株式	普通株式 1,412	-	-
発行済株式総数	3,326,812	-	-
総株主の議決権	-	33,254	-

(注) 「単元未満株式」の欄には、当社所有の自己株式45株が含まれております。

【自己株式等】

2022年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式総数 に対する所有株 株式数の割合 (%)
-	-	-	-	-	-
計	-	-	-	-	-

(注) 単元未満株式の買取請求に伴い、当第2四半期会計期間末現在の自己株式数は45株となっております。

2【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（2022年7月1日から2022年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2022年4月1日から2022年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,325,507	1,403,704
売掛金及び契約資産	226,262	433,518
製品	59,017	75,350
仕掛品	84,317	102,306
原材料及び貯蔵品	114,858	124,894
その他	44,283	102,487
流動資産合計	1,854,247	2,242,261
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	87,852	81,210
車両運搬具(純額)	0	0
工具、器具及び備品(純額)	11,334	11,002
土地	296,000	296,000
リース資産(純額)	14,528	15,626
使用権資産(純額)	-	9,286
有形固定資産合計	409,714	413,125
無形固定資産	1,513	2,675
投資その他の資産	14,991	18,476
固定資産合計	426,219	434,277
資産合計	2,280,467	2,676,539
負債の部		
流動負債		
買掛金	37,256	27,737
未払法人税等	12,695	57,890
前受金	247,570	187,739
賞与引当金	-	5,068
その他	141,245	151,554
流動負債合計	438,768	429,991
固定負債		
転換社債型新株予約権付社債	900,000	900,000
資産除去債務	3,272	3,306
その他	110,274	110,570
固定負債合計	1,013,547	1,013,877
負債合計	1,452,315	1,443,868

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,363,956	2,369,797
資本剰余金	583,866	589,707
利益剰余金	2,103,761	1,746,832
自己株式	40	40
株主資本合計	844,020	1,212,631
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	20,404	11,983
その他の包括利益累計額合計	20,404	11,983
新株予約権	4,535	8,055
純資産合計	828,151	1,232,670
負債純資産合計	2,280,467	2,676,539

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
売上高	637,912	1,135,180
売上原価	347,957	263,229
売上総利益	289,955	871,950
販売費及び一般管理費	423,155	504,744
営業利益又は営業損失()	133,200	367,206
営業外収益		
受取利息	97	326
為替差益	2,423	36,683
補助金収入	132	-
受取保険金	110	-
その他	2,204	1,409
営業外収益合計	4,968	38,418
営業外費用		
支払利息	450	2,120
株式交付費	106	116
営業外費用合計	557	2,236
経常利益又は経常損失()	128,788	403,389
特別損失		
固定資産除却損	9	5
特別損失合計	9	5
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期 純損失()	128,798	403,383
法人税、住民税及び事業税	1,225	46,612
法人税等調整額	509	157
法人税等合計	1,734	46,454
四半期純利益又は四半期純損失()	130,533	356,929
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主 に帰属する四半期純損失()	130,533	356,929

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
四半期純利益又は四半期純損失()	130,533	356,929
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	26,614	32,387
その他の包括利益合計	26,614	32,387
四半期包括利益	103,918	389,316
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	103,918	389,316

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失()	128,798	403,383
減価償却費	42,341	11,301
株式報酬費用	6,166	9,355
賞与引当金の増減額(は減少)	-	4,696
受取利息	97	326
支払利息	450	2,120
為替差損益(は益)	1,618	27,991
補助金収入	132	-
受取保険金	110	-
有形固定資産除却損	9	5
売上債権及び契約資産の増減額(は増加)	32,297	207,255
棚卸資産の増減額(は増加)	13,574	41,613
仕入債務の増減額(は減少)	7,863	10,030
未払金の増減額(は減少)	5,174	10,182
前受金の増減額(は減少)	124,674	59,830
その他	9,547	35,668
小計	9,844	37,964
利息及び配当金の受取額	97	326
利息の支払額	453	2,120
補助金の受取額	2,465	6,691
保険金の受取額	110	-
法人税等の支払額	3,085	4,183
法人税等の還付額	2	1
営業活動によるキャッシュ・フロー	10,706	38,681
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	5,058	1,007
無形固定資産の取得による支出	-	1,848
その他	145	53
投資活動によるキャッシュ・フロー	5,203	2,802
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	2,481	-
リース債務の返済による支出	14,855	29,081
割賦債務の返済による支出	1,728	-
財務活動によるキャッシュ・フロー	19,064	29,081
現金及び現金同等物に係る換算差額	6,184	71,399
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	28,790	78,197
現金及び現金同等物の期首残高	1,327,813	1,325,507
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,299,022	1,403,704

【注記事項】

(会計方針の変更)

米国会計基準を採用している一部の在外子会社は、第1四半期連結会計期間より「リース(Topic842)」を適用しております。本基準の適用にあたっては、経過措置として認められている、本基準の適用による累積的影響を適用開始日に認識する方法を採用しております。

この結果、当第2四半期連結貸借対照表において使用権資産が9,286千円、流動負債のその他が10,364千円、それぞれ増加しております。

なお、この変更による当第2四半期連結累計期間の損益に与える影響はありません。

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
役員報酬	66,612千円	70,250千円
給料及び手当	106,608	130,383
賞与引当金繰入額	-	4,696
退職給付費用	3,778	4,232
減価償却費	5,772	4,031
研究開発費	89,081	96,158
支払手数料	40,131	49,284

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
現金及び預金勘定	1,299,022千円	1,403,704千円
現金及び現金同等物	1,299,022	1,403,704

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

1. 配当金支払額
該当事項はありません。
2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの
該当事項はありません。
3. 株主資本の金額の著しい変動
株主資本の金額は、前連結会計年度末日と比較して著しい変動がありません。

当第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

1. 配当金支払額
該当事項はありません。
2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの
該当事項はありません。
3. 株主資本の金額の著しい変動
株主資本の金額は、前連結会計年度末日と比較して著しい変動がありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社グループは、「PXBマウス事業」の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(金融商品関係)

金融商品の四半期連結貸借対照表計上額その他の金額は、前連結会計年度の末日と比較して著しい変動がありません。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

前第2四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

(単位:千円)

	薬効薬理分野	安全性等分野	合計
一時点で移転される財	89,116	312,145	401,262
一定の期間にわたり移転されるサービス	159,109	77,540	236,650
顧客との契約から生じる収益	248,226	389,686	637,912
その他の収益	-	-	-
外部顧客への売上高	248,226	389,686	637,912

当第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

(単位:千円)

	薬効薬理分野	安全性等分野	合計
一時点で移転される財	251,205	467,762	718,968
一定の期間にわたり移転されるサービス	317,387	98,824	416,212
顧客との契約から生じる収益	568,593	566,587	1,135,180
その他の収益	-	-	-
外部顧客への売上高	568,593	566,587	1,135,180

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益又は1株当たり四半期純損失及び算定上の基礎、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
(1) 1株当たり四半期純利益又は1株当たり四半期純損失()	39円59銭	107円65銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失()(千円)	130,533	356,929
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失()(千円)	130,533	356,929
普通株式の期中平均株式数(株)	3,296,842	3,315,679
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益	-	71円56銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益調整額	-	-
普通株式増加数(株)	-	1,671,971
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	-	-

(注) 前第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2022年11月10日

株式会社フェニックスバイオ
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人
広島事務所

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 岩出博男

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 大江友樹

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社フェニックスバイオの2022年4月1日から2023年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2022年7月1日から2022年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2022年4月1日から2022年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社フェニックスバイオ及び連結子会社の2022年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務

諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。

- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記の四半期レビュー報告書の原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. X B R L データは四半期レビューの対象には含まれていません。